

His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the King of Great Britain, Ireland and the British Dominions beyond the Seas, Emperor of India, desiring to facilitate trade and commerce between Japan and India, have decided to conclude a Convention for this purpose and have accordingly appointed as their Plenipotentiaries:—

His Majesty the Emperor of Japan:

His Excellency Mr. Tsuneo Matsudaira, His Imperial Majesty's Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary at the Court of St. James;

His Majesty the King of Great Britain, Ireland and the British Dominions beyond the Seas, Emperor of India:
For India:

The Rt. Hon. Sir John Allsebrook Simon, G.C.S.I., K.C.V.O., M.P., His Principal Secretary of State for Foreign Affairs;

The Rt. Hon. Sir Samuel John Gurney Hoare, Bt., G.C.S.I., G.B.E., C.M.G., M.P., His Secretary of State for India;

Who, having communicated their full powers, found in good and due form, have agreed as follows:—

Article 1.

The territories to which the present Convention applies are, on the part of His Majesty the Emperor of Japan, all the territories and possessions belonging to or administered by His Majesty the Emperor (such territories being hereinafter referred to as Japan); and on the part of His Majesty the King of Great Britain, Ireland and the British Dominions beyond the Seas, Emperor of India, British India,

昭和九年八月

日本國及印度間ノ通商關係ニ關スル條約及議
定書ノ説明書

外務省

日本國及印度間ノ通商關係ニ關スル條約及
議定書ノ説明書

目次	頁
第一節 舊日印條約廢棄前後ノ事情	一
第二節 條約及議定書ノ締結	六
第三節 條約及議定書ノ構成	九
第四節 條約及議定書ノ規定	一
第一項 條約	一
第二項 議定書	一七

第一節 舊日印條約廢棄前後ノ事情

一 日本國及印度間ノ通商關係ハ明治三十七年八月二十九日（一九〇四年）調印ノ日印通商條約ニ依リ律セラレ來リタルカ同條約ハ專ラ日印相互ニ相手國產品ニ對シ關稅上ノ最惠國待遇ヲ約シタルモノナリ。爾來兩國間ノ貿易ハ年ト共ニ隆昌ヲ加ヘ別表（本説明書末尾記載ノ通り昭和六年ヲ除クノ外最近各年貿易額三億圓乃至七億圓ニ達シ對印貿易ハ本邦對外貿易中極メテ樞要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ（尤モ昭和六年度迄ハ常ニ我國ニ取リ輸入超過ヲ持續シ一昨昭和七年甫メテ輸出超過ヲ見ルニ至リタルハ前記別表記載ノ通りナリ）

ニ 然ル處最近ニ於ケル我國工業ノ進步著シク殊ニ紡績工業ニ於テ異數ノ發達ヲ爲シ找綿布ハ一面先進國タル英國ノ綿製品ヲ凌駕シ他面印度自体ニ於テ進展シ來リタル紡績業ト拮抗シテ非常ナル勢ヲ以テ印度ニ向テ輸出セララルニ至レリ於是印度政府ハ之カ調整ノ

爲メ何等カノ措置ヲ執ラサルヲ得サルニ立到リ遂ニ昭和五年（一九三〇年）四月印度綿業保護法ヲ制定シテ綿布ニ對スル一般稅率ヲ二割ニ引上クルト共ニ英國製綿布ニ對シテハ從價一割五分ヲ課スルニ止メ茲ニ對英綿布特惠關稅ノ端緒ヲ開クニ至レリ（但シ先是一九二七年本邦綿糸ニ對シ事實上英國品ニ比シ差別的待遇ヲ爲スカ如キ制度ヲ設ケタルコトハアリ）右ニ對シ帝國政府ハ右特惠關稅カ舊日印通商條約ニ反スル旨抗議セルモ英國政府ハ我方ノ解釋ヲ認メス爾來數次ニ亘リ帝國政府ノ抗議ニモ不拘先方ハ該法律ヲ其儘實施シ來レリ

三、若綿布關稅ハ其後數次ノ變改ヲ加ヘラレ其都度特惠率トノ開キ増大セラレ（昭和六年ニハ二回即チ一般稅率ヲ二割五分、三割一分二厘五毛ニ、特惠稅率ヲ二割、二割五分ニ引上ケ更ニ昭和七年一般稅率ヲ五割ニ引上クルニ至リ特惠稅率トノ差ハ二割五分トナレリ）後記舊日印條約終了セル昭和八年十一月ニハ一般稅率七割五

分即チ特惠率トノ開キ實ニ五割ニ及ビ居タリ（右ハ後記五ノ通同年六月七日ニ爲シタル引上ノ結果ナリ）

四、此間本邦ニ於ケル産業ノ進歩ト昭和六年十一月ニ於ケル金輸出再禁止ノ影響ヲ受ケ日本綿布ノ對印輸出ハ前述高率關稅ノ賦課ニモ拘ラス益々増加シ印度ノ主要産業タル紡績業ヲ脅威スルコト著シク且綿布以外ノ雜貨モ亦異常ナル對印進出ヲ爲シタル爲メ印度ニ於テハ國內産業保護ノ爲適當ナル措置ヲ講スル必要アリトノ意見擡頭シ昭和七年末孟買「カルカッタ」方面ノ有力ナル商工業者團體ニ於テ日印通商條約廢棄ヲ決議シ印度政府ニ右趣旨ノ陳情ヲ爲スモノ簇出シ更ニ昭和八年二月春期印度議會開催セララルヤ孟買紡績聯合會其他ヨリ爲替補償關稅設定ノ請願アリ印度政府モ斯ル國內當業者ノ要望ニ動カサレ遂ニ同年四月八日印度産業保護法ナル名目ノ下ニ「外國商品カ印度ニ於テ印度産業ノ存立ヲ危クスルカ如キ異常ニ低廉ナル價格ヲ以テ賣却セラレ又ハ輸入セララル場

合總督ハ必要ト認ムル調査ヲ行ヒタル後當該印度產業ノ利益ヲ保護スルニ必要ナリト認メラル程度ノ關稅ヲ賦課スルコトヲ得トノ法案ヲ議會ニ提出スルト共ニ（同法ハ同月十五日議會通過）本法實施カ舊日印條約ノ規定ニ牴觸スヘキニ鑑ミ英國政府ハ四月十日附公文ヲ以テ在英松平大使ヲ通シ印度政府ノ希望ニ依ル趣ヲ以テ同條約ヲ同年十月十日以後失效セシムヘキ旨帝國政府ニ通告シ來レリ

五 次テ印度政府ハ同年六月七日綿布ニ對スル一般稅率ヲ七割五分（又ハ每ポンド六「アンナ」四分ノ三ノ何レカ高キ方）ニ引上ケ對英特惠稅率ハ依然二割五分ニ據置キ以テ本邦綿布ノ印度輸入ヲ制限セントスルニ至レリ右引上率ハ英國品以外ノ各國品ニ均シク適用アル次第ナルモ印度ニ輸入セラル綿布ハ九割以上迄日英兩國品ノ占ムル所ナルカ故ニ實質上ハ我綿布ヲ目的トセルモノナルコト言フ俟タス此ノ禁止的關稅引上ノ報傳ハルヤ我カ大日本紡績聯

合會ハ之カ報復ノ爲印棉買付ヲ停止シ以テ印度側措置ニ對抗スルコトニ決セリ

第二節 條約及議定書ノ締結

一帝國政府ハ英國政府ヨリノ舊日印條約廢棄通告ニ接スルヤ右條約ノ失效ニ依ル日印間無條約狀態ノ發生ヲ極力阻止スルノ目的ヲ以テ英印兩政府ト交渉ノ結果先方ヨリノ申出ニ應シ代表者ヲ印度ニ派遣シ印度政府ノ代表者トノ間ニ日印間ノ通商問題ヲ商議セシムルコトトナレリ、而シテ帝國政府ハ印度側ガ夏期印度議會ノ開會中ニ右商議ヲ開始スルコトヲ困難ト爲スノ事情ヲ諒トシ右議會ノ終了後卽チ九月二十一日以後ニ於テ商議ヲ開始シ度シトノ印度側ノ希望ヲ容レ又印度ハ財政自主權ヲ有スルモ印度ニ關スル外交權ハ英國政府ニ於テ之ヲ有スル英印間現在ノ關係ニ鑑ミ英印兩政府ト交渉ノ上印度ニ於ケル商議ノ結果新條約ヲ締結スルコトトナル場合ニハ印度ニ於テ新條約ノ案文ヲ作成、正式調印ハ之ヲ「ロンドン」ニ於テ行フコトトシ尙調印ニ際シテハ印度ニ於テ作成シタル案文ニ對シ實質ニ付何等ノ變更ヲ加ヘザル了解ノ下ニ商議ヲ爲

スコトニ打合ヲ了シ、斯クシテ日印兩政府代表者間ノ商議ハ昭和八年九月二十三日ヨリ「シムラ」ニ於テ開始セラレタリ

ニ一方帝國政府ハ舊日印條約ノ失效期日タル十月十日迄ノ短期間ニ於テ日印兩政府代表者間ノ商議ガ妥結ニ達シ新條約ノ締結ヲ見ルニ至ルガ如キコトハ到底之ヲ豫期シ得ザリシニ鑑ミ右條約ノ失效後日印間ノ關係ガ無條約狀態ト爲ルコトヲ避クル爲右條約ノ效力延長方ニ關シ英國政府ト交渉シタル結果右條約ノ效力ヲ十月十日以後一月間延長セシムルコトニ兩國政府間ノ協議繼リ、昭和八年十月七日「ロンドン」ニ於テ松平大使ト「サイセン」英國外相トノ間ニ其ノ趣旨ノ公文交換ヲ了セリ

ニ舊日印條約ハ右公文交換ニ依リ十月十日以後一月間效力ヲ延長セシメタルニ止マリ、其ノ後再度ノ效力延長ヲ爲サシムルコト無カリシモ日印兩政府代表者間ノ商議ハ引續キ之ヲ繼續シ十月下旬印度政廳ノ「ニューデリー」移轉後ハ同地ニ於テ之ヲ續行シ昭和八

年末ニ於テ日印兩政府代表者ハ實質問題ノ大綱ニ付妥結ニ到達シ、更ニ引續キ之ヲ基礎トシテ新條約案ノ起草ニ著手シ、昭和九年四月十九日條約案及附屬議定書案ノ作成ヲ了シタリ

四 右條約案及附屬議定書案ニ對シテハ更ニ日英兩國政府ニ於テ之ヲ検討シ字句ニ付些少ノ修正ヲ加ヘタル上、昭和九年七月十二日「ロンドン」ニ於テ帝國全權委員松平大使竝ニ英國側全權委員「サイモン」外相及「ホーア」印度相ノ署名ヲ了シタリ

第三節 條約及議定書ノ構成

條約ハ前文及末文ノ外ニ六條ヨリ成リ日印間ノ通商關係ヲ律スヘキ一般原則ヲ規定ス、附屬議定書ハ九條ヨリ成リ專ラ我ガ綿布ノ對印輸出ニ付規定ス

條約及議定書ノ規定事項左ノ如シ

第一條約ノ規定事項

- (一) 條約ノ適用區域（第一條）
- (二) 兩國物品ノ輸入關稅及課金ニ關スル最惠國待遇付與（第二條）
- (三) 爲替價值低落ノ場合ニ於ケル特別關稅ノ賦課（第三條）
- (四) 關稅ノ變更ガ相手國ノ貿易ニ惡影響ヲ及ホス場合ニ於ケル兩國間利益ノ調和ヲ目的トスル商議ノ開始（第四條）
- (五) 條約ノ批准及實施期日等（第五條）
- (六) 條約ノ有効期間及廢棄豫告期間等（第六條）

第二條約ノ規定事項

- (一) 棉花及綿布年度竝ヤードノ定義（第一條）
- (二) 日本綿布ニ對スル關稅率（第二條）
- (三) 日本綿布ニ對スル年割當量（第三條）
- (四) 日本綿布ニ對スル半年ノ割當量（第四條）
- (五) 綿布年度間ニ於ケル割當量ノ移讓（第五條）
- (六) 最初ノ棉花年度及綿布年度開始期（第六條）
- (七) 日本綿布ニ對スル品種別割當量及品種間ニ於ケル割當量ノ移讓（第七條）
- (八) 議定書ト條約トノ關係（第八條）
- (九) 議定書ノ實施期日及有効期間（第九條）

第四節 條約及議定書ノ規定

第一項 條約

前文

前文ニ付テハ特ニ説明スベキコトナシ帝國現有一般通商條約ノ前文ト略同様ナリ

第一條 條約ノ適用區域

本條ハ本條約ノ日印双方ニ於ケル適用區域ヲ規定セルモノニシテ日本側ニ付テハ本條約ハ日本國ニ屬シ又ハ其ノ管治スル一切ノ地域及屬地ニ適用スルモノトシ又印度側ニ付テハ舊日印條約同様英國皇帝直轄ノ英領印度ノミナラス英國皇帝トノ條約其他ニ依リ本條約ノ規定ニ關シ英領印度ト同一ノ地歩ニ置カルヘキ印度諸邦ニモ適用セラ

第二條 兩國物品ノ輸入關稅及課金ニ關スル最惠國

待遇付與

本條ハ輸入關稅ニ關シ相互ニ最惠國待遇ヲ許與スルノ原則ヲ定メタルモノナリ（本邦ト外國トノ通商條約中ニ通常規定セラルルモノト同趣旨ナリ尙舊日印條約ニ於テハ第一條及第二條ニ於テ之ヲ規定セリ）

第三條 爲替價值低落ノ場合ニ於ケル特別關稅ノ賦課

第一項 本項ハ昭和八年十二月三十一日後圓ノ對「ルビー」爲替價值ノ低落シタル場合安價ナル本邦品ノ輸入ニ依リ印度產業ノ脅威セラルルコトアルヘキヲ慮リ之カ影響ヲ是正スル爲メ輸入關稅ニ關スル最惠國待遇ノ例外トシテ印度政府ヲシテ本邦品ニ對シ別國產物品ヨリモ高率ナル特別關稅ヲ賦課スルコトヲ得シムルト共ニ圓價ノ變動ニ應シ印度政府ハ時々之カ變更ヲ爲スコトヲ得シムル旨ヲ規定セルモノナリ而シテ右關稅率ノ變更ハ該稅率賦課ノ後五週間ヲ經ルニアラサレハ之ヲ爲シ得サルコトトセリ

第二項 第一項ニ依レハ印度政府ハ圓貨低落ノ際隨意ニ特別關稅ノ

賦課若クハ變更ヲ爲シ得ルコトナル處日本製品ハ其ノ原料ヲ海外ニ仰クコト多ク從テ爲替下落ノ影響ハ輸入原料ノ騰貴ニ依リ或程度迄相殺セラルヘク又爲替ノ下落ハ國內物價ヲ漸次騰貴セシムルノミナラス日本ニ於テ輸出統制等ノ手段ニ依リ其ノ商品ノ輸出價格ノ低落防止ニ努ムル結果ハ我商品ノ輸出價格ヲ騰貴セシムルカ如キ事情アルヲ以テ印度政府カ特別關稅率ノ賦課若ハ變更ノ場合或ハ之カ變更方日本政府ノ要求アリタル場合ハ（例ヘハ圓貨恢復セルニ拘ラス印度側カ特別關稅率ノ引下ヲ爲ササルカ如キ場合日本側ヨリ引下ヲ要求シ得ル途ヲ開ケルモノナリ）前掲諸事情ニ對シ充分考量ヲ拂ヒ其稅率カ日本商品ノ稅金込輸入價格ニ對スル爲替變動ニ依ル現實ノ影響ヲ是正スルニ必要ナル程度ニ止ムヘキコトト爲シタリ

第三項及第四項 日本側ニ於テモ印度ノ貨幣價值下落ノ場合同様ノ措置ヲ講シ得ル様本條項ヲ設ケタリ唯我國ノ特別關稅ノ賦課ハ「ルビー」對圓ノ比價ガ「ルビー」邦貨七十三錢二厘ヨリ下リタル場

合ニ限りタリ

第四條

關稅ノ變更カ相手國ノ貿易ニ惡影響ヲ及ボス場合ニ於ケル兩國間利益ノ調和ヲ目的トスル商議ノ開始

本條項ハ締約國何レカ一方カ關稅率ノ引上、稅目分類ノ變更等關稅上ノ變更ヲ爲スニ當リテハ相手國ノ産業上ノ利益ニ適當ノ考慮ヲ拂フヘシトノ趣旨ニ出テタルモノニシテ若シ日印兩國ノ中何レカ一方ノ關稅ノ變更カ他方ノ貿易ニ相當程度ノ打撃ヲ與ヘタル場合ハ右打撃ヲ受ケタル國ノ要求ニ基キ商議ヲ開始シ出來得ル限り兩國ノ利益ヲ調節スヘキ旨ヲ規定シタリ然レトモ本條項ノ規定ニ依リ締約國ハ關稅自主權ヲ失フモノニ非サルコト勿論ニシテ其ノ一方カ如何ナル場合ニモ相手國ノ貿易ニ惡影響ヲ及ホスコトアルヘキ關稅ヲ賦課シ得ストセハ國內産業ノ利益ヲ確保シ得サルヲ以テ之ヲ明ニスル爲メ日印兩國ノ利益保護ノ爲必要ナル關稅ノ變更ヲ爲スノ權利ヲ留保ス

ルコトトシタリ

第五條

條約ノ批准及實施期日等

本條ニ於テ本條約ハ相互ニ批准ノ上倫敦ニ於テ成ルヘク速ニ批准書ノ交換ヲ爲スコトトシ又右批准ハ外交手續ニ依リ夫々他ノ締約國ニ通告スルコトト爲シタルカ通商條約ノ實施ハ批准書交換後ト爲スヲ原則トスルモ批准書交換ニ依リ生スル條約實施ノ遲延ヲ避クル爲メ批准書交換前双方ノ通告中後ニ通告力爲サレタル日ヨリ實施スルコトトセリ

第六條

條約ノ有効期間及廢棄豫告期間

第一項 本條約ハ一九三七年三月三十一日迄有效ナルヘキ旨ヲ規定セリ

第二項 本條約カ日印間ノ正常的通商關係ヲ律スル根本原則ヲ規定シ居ル關係上出來得ル限り長期ニ亘リ有效トスルヲ有利ト認メ右期間滿了ノ六月前ニ廢棄ノ通告ナキ場合ハ何レカ一方カ廢棄ノ通告ヲ

爲シタル日ヨリ六月ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ有效トシ事實上三
年以上ノ有効期間ヲ認ムルコトセリ

末 文

末文ニ付テハ特ニ説明スヘキコトナシ

第二項 議定書

本議定書ハ日印通商條約ニ附屬セルモノニシテ我國カ近年諸外國間
ニ於ケル通商條約ノ新傾向タルバーター、システムヲ條約中ニ容認
シタル最初ノモノナリ即チ日本ハ本議定書ニ於テ印度ニ對シ一定量
ノ印棉買付ヲ條件トシ一定量ノ日本綿布ノ印度ヘノ輸出ヲ認メシム
ルト共ニ綿布ニ對スル關稅率ヲ協定セシメタリ他方右綿布ノ品種別
割當、時期別割當等ノ制限ヲ容認シ且印度側ヲシテ品種別間及時期
別間移讓率ヲ認メシメタリ

議定書各條項ノ要旨左ノ如シ

前 文

前文ハ本邦綿布ノ印度ヘノ輸入ニ關シ協定スヘキコトヲ明ニス

第一條 棉花及綿布年度並ニヤードノ定義

本條ニ於テハ棉花年度及之ニ關聯スル綿布年度ノ開始期（棉花年度

ハ一月一日綿布年度ハ四月一日）及其ノ相互關係ニ付説明ヲ加ヘタル外本議定書中ヤードトハ長サノヤードタルコトヲ明ニシタリ
綿布年度ノ開始期ヲ棉花年度ノ開始期ヨリ三ヶ月ノ後ト爲シ其間ニ開キヲ設ケタルハ本議定書ニ依リ一綿布年度ノ綿布割當量ヲ當該綿布年度ヨリ三ヶ月早ク開始スル棉花年度ノ印棉買付量ノ多寡ニ依リ決定スル關係上當該綿布年度ノ終了スル約三ヶ月以前ニ日本側ヲシテ正確ナル綿布割當量ヲ知ラシメ其輸出ヲ統制セシムル便宜ヨリ出テタルモノナリ

第二條 日本綿布ニ對スル關稅率

本條第一項ニ於テハ印度政府カ協定期間中日本綿布ニ課スヘキ關稅ハ

- (イ) 生無地ニ在リテハ從價五割又ハ一ポンドニ付五「アンナ」四分ノ一ノ中何レカ高キ方
- (ロ) 其他ノ綿布ニ付テハ從價五割 ヲ超エサルヘキコトヲ明ニシタリ

第二項ニ於テハ第一項(ロ)ノ綿布即チ生無地以外ノモノニ對シテハ印度政府ハ必要ノ場合從量稅ヲ賦課シ得ルノ權利ヲ留保シ唯右稅率ハ一ポンドニ付五「アンナ」四分ノ一ヲ超エサルコトト爲シタリ

第三條 日本綿布ニ對スル年割當量

本條ハ印度ニ輸入セラルヘキ日本綿布輸入割當量ヲ決定スルノ標準及スライディング、スケールニ依ル其増減方法ヲ規定シタルモノナリ

(一) 基準割當量 本條(一)ニ於テハ一綿布年度ニ於ケル日本綿布ノ割當量ノ決定カ右ニ對應スル(當該綿布年度ヨリ三ヶ月前ニ開始シ三ヶ月前ニ終了スル)一棉花年度中ニ於ケル日本ノ印度棉花買付數量ニ關聯スルコトヲ明ニシ右綿布割當量ヲ如何ナル基準ニ依リ算定スルヤヲ規定シタリ即チ日本綿布割當量ノ算定ニ當リテハ日本ノ棉花買付量百萬俵ニ對スル綿布割當量ハ三億二千五百萬ヤードトシ之ヲ基準割當量ト爲スコトトセリ

(二) 棉花買付量百萬俵未滿ノ場合ニ於ケル綿布割當量 (二)ニ於テハ棉花買付量カ百萬俵未滿ノ場合ノ割當量ハ右不足數量每一萬俵若クハ五千俵ヲ超ユル端數ニ對シ二百萬ヤードノ割合ヲ以テ前記基準割當量ヨリ控除スルコトニ依リ決定スルコトセリ

(三) 棉花買付量ガ百萬俵ヲ超過スル場合ニ於ケル綿布割當量 棉花買付量カ(二)ノ場合ニ反シ百萬俵ヲ超過スルトキハ綿布割當量ハ其超過數量每一萬俵若クハ五千俵ヲ超ユル端數ニ付百五十萬ヤード宛基準割當量ニ加算スルコトニ依リ決定セラルモノナルモ一棉花年度ニ於ケル割當量ハ最高限度ヲ四億ヤード(百五十萬俵ニ對スル割當量)トシ之ヲ超過シ得サルモノト爲シタリ

(四) 棉花買付量カ百五十萬俵ヲ超過スル場合超過量ヲ翌年度棉花買付量ニ繰入計算スベキコト 前項ニ依リ綿布割當量ニハ最高四億ヤードノ制限アルヲ以テ之ニ關聯スル印棉買付量ハ百五十萬俵ナル處若シ一棉花年度ニ於ケル印棉買付量カ百五十萬俵ヲ超過スル場

合ハ綿布割當量決定上右超過數量ハ次ノ棉花年度ニ於テ日本へ輸出セラルル棉花ノ數量ニ加算セラルモノトス

(五) 棉花及綿布ノ再輸出量控除ニ關スル規定 印度ニ一旦輸入セラレタル日本綿布ノ再輸出量及同様日本ニ輸入セラレタル棉花ノ再輸出量ハ本議定書第四、第五、第六及第七各條ニ基ク棉花及綿布輸入量ノ計算外トシ之ヲ控除スルモノト爲シタリ

第四條 日本綿布ニ對スル半年ノ割當量

(一) 綿布年度前半期ノ綿布割當量 本項ハ一綿布年度ノ前半期ニ對スル綿布割當量ヲ規定シタルモノナルカ一綿布年度ニ於ケル綿布割當量ノ決定ハ右綿布年度ニ對應スヘキ棉花年度開始後一年ヲ經ルニ非サレハ判明セサルモノナルモ今後日本ノ印棉輸入量ハ年額百五十萬俵ヲ下ラサルヘキヲ豫想シ一綿布年度ニ於ケル綿布割當量ヲ四億ヤードト假想シ之ニ基キ前半期ノ綿布割當量ヲ半年度割當量最大限タル二億ヤードト定メタリ

(一)ノ第二項ハ、第一項ニ依リ日本ノ棉花買付力如何ニ過少ナル場合ニ於テモ尙前半期ノ割當量ハ二億ヤードトナルノ不合理アルニ顧ミ斯ル場合ニ對スル綿布割當量ノ調整ヲ規定シタルモノニシテ前半期ニ於ケル日本綿布輸出數量カ同綿布年度ノ割當量（即チ之ニ對應スル棉花年度ニ於ケル棉花買付量ヲ基礎トシテ算出セラレタル綿布割當量）ヲ超過スルトキハ次ノ綿布年度ノ前半期ニ對ス

ル割當量ハ二億ヤードヨリ右超過量ヲ差引タルモノト爲スヘキコトヲ規定シタリ（例ヘハ日本ニ於テ棉花ノ買付皆無ノ場合ハ前條ノ規定ニ依ル計算ニ從ヒ綿布割當量ハ一億二千五百萬ヤードトナルカ斯ル場合ハ前半期ニ於テ二億ヤード輸出シタリトセハ其超過量七千五百萬ヤードハ之ヲ次年度ノ前半期割當量ヨリ差引クコトヲ規定セルモノナリ）

(二) 綿布年度後半期ノ割當量 (二)ノ第一項ハ綿布年度ノ後半期ニ對スル綿布割當量ノ決定方法ヲ規定シタルモノニシテ即チ後半期ノ割當量ハ右綿布年度ニ對應スル一棉花年度ニ於ケル日本ヘノ印棉輸出數量ヲ基準トシテ算定セラレタル綿布割當量ヨリ前記二億ヤードヲ控除シタル數量ナルコトヲ規定シタリ

(二)ノ第二項ハ若シ前半期ニ於ケル綿布ノ現實輸出量カ第五條各年度間ノ移讓規定ニ依リ二億ヤードヨリ増加又ハ減少セラレタル前半期割當量ニ充タサリシ場合ニハ後半期割當量ハ二千萬ヤードヲ

超過セサル限度ニ於テ右不足數量ヲ同年度後半期ニ移譲シ其割當量ニ加算スルコトヲ得ルコトトセリ（前半期ノ割當量ハ最大限タル二億ヤードニ定メタル關係上後半期ヨリ同シ年度ノ前半期ヘノ移譲ハ之ヲ認メス）

第五條 綿布年度間ニ於ケル割當量ノ移譲

日本綿布ノ對印輸出量ハ前記第三條及第四條ニ依リ夫々制限セラルモノナルモ本條ニ於テハ前條(二)第二項ニ於ケルト同様綿布取引ノ繁閑ヲ考慮シ第三條及第四條ノ規定ニ拘ハラス各綿布年度間ニ割當量ノ相互融通ヲ認ムルノ例外規定ヲ設ケタリ即チ

本條(一)ニ於テハ一綿布年度ニ於ケル我カ綿布ノ對印輸出量カ同年度割當量ニ充タサリシ場合ハ二千萬ヤードヲ限度トシ其不足數量ヲ翌年度前半期ニ移譲スルコトヲ得シムルト共ニ他方

(四)ニ於テハ我綿布ノ對印輸出量カ當該年度ノ割當量ヨリ超過シ得ルコトヲ認メタリ即チ一綿布年度ニ於テ二千萬ヤードヲ限度トシ割當

量ヲ超エテ輸出シ得ルコトトシ右超過數量ハ次年度ノ前半期割當量ヨリ差引クコトトセリ（但シ協定期間中ノ最終年度ニ於テハ超過輸出ヲ認メサルコト勿論ナリ）

第六條 最初ノ棉花年度及綿布年度ノ開始期

本條ハ本議定書ノ效力發生カ綿布年度ノ初日タル四月一日以外ノ日トナル場合ヲ豫見シ最初ノ綿布年度及之ニ對應スル棉花年度ノ開始期ヲ何時ニ定ムヘキヤシ明カニスル爲メ設ケラレタル規定ニシテ即チ割當量ノ計算上第一棉花年度ハ千九百三十四年一月一日第一綿布年度ハ同年四月一日ニ開始スルモノト看做スヘキコトヲ規定セリ

第七條 日本綿布ニ對スル品種別割當量及品種

間ニ於ケル割當量ノ移譲

本條ハ印度ニ輸入セラルヘキ日本綿布ニ付各品種別ノ細別割當量ヲ規定シ置カサル場合ハ如何ニ綿布全体ノ輸入量ヲ制限スルモ或ル品

種ノ綿布ノミ特ニ多量ノ輸入ヲ見ルカ如キコトアリ得ヘキニ鑑ミ過
去數年間ノ各品種別輸出統計ヲ基礎トシ日本側ノ意嚮ヲ參酌シ綿布
ヲ四品種ニ區別シ一定ノ割合及條件ニ依リ此等各品種ノ輸入ガ許容
セラルヘキコトヲ規定セルモノナリ即チ

(一) 綿布ノ細別割當量 本項ニ於テハ一綿布年度ニ於ケル日本綿布輸
入割當量ハ左ノ割合ニ依リ各品種別ニ細則シテ割當テラルヘキコ
トヲ規定セリ即チ

生無地 四割五分

縁附生地 一割三分

晒(白)地 八分

色(捺染、無地染又ハ糸染)地 三割四分

從テ日本綿布ノ各品種別對印輸出量ハ左記ノ(二)ノ品種間移讓ノ場合
ヲ除キテハ本項ノ規定ニ依リ制限セラルモノナリ

(二) 各品種間ニ於ケル細別割當量ノ移讓 綿布割當量ヲ一定ノ品種別

ニ區分シ其割當量丈ノ輸入ヲ爲スコトハ實際取引上ニ不便多キヲ
以テ左ノ條件ニ依リ前項品種間ノ相互融通ヲ爲シ得ヘキコトヲ認
メタリ即チ

(イ) 各品種間移讓ニ依リ一綿布年度ニ對スル割當總量ヲ増加セサル
コト

(ロ) 縁附生地及晒地ヨリ移讓セラルヘキ數量ハ當該品種割當量ノ二
割又其他ノ綿布ヨリ移讓セラルヘキ數量ハ其ノ品種ニ對スル割
當量ノ一割ヲ超ユルヲ得サルコト(例ヘハ生無地ノ割當量ヲ増
ス爲ニ他ノ品種割當量ヨリ引去ル程度ハ晒地ニ付テ云ヘハ晒地
ニ對スル割當量ノ二割ヲ超ユルコトヲ得ス)

(ハ) 縁附生地及晒ニ對シ移讓セラルヘキ數量ハ當該品種割當量ノ二
割其他ノ品種ニ對スル場合ハ一割ヲ超エサルコト(例ヘハ晒地
ノ割當量ヲ増ス場合ハ八分ニ其ノ二割即一分六厘ヲ限度トシ合
計九分六厘ヲ超ユルヲ得ス)

(三)第五條ノ(ロ)ノ規定ニ依リ一綿布年度ニ於テ二千萬ヤードヲ限度トシ其割當量ヲ超過シ輸出スル場合右超過量ニ對シテモ本條ノ各品種ニ對スル細別割當量及其相互間移讓ニ關スル規定ハ適用セララルモノトス

第八條 議定書ト條約トノ關係

本條ニ於テハ本議定書カ日本綿布ノ對印輸出ニ關スル特別規定ナルニ鑑ミ之ニ依リ締約國ハ條約第二條(最惠國待遇)及同第三條(爲替條項)ニ依ル權利ヲ妨ケラルコトナキコトヲ規定セリ

第九條 議定書ノ實施期日及有効期間

第一項 本議定書ハ條約ニ附屬シ居ル關係上同條約ト同時ニ實施セラレ且條約ト同様一九三七年三月三十一日迄有效タルヘキ旨ヲ規定シタルカ本議定書ハ條約ガ正常的通商關係ヲ規定セルニ反シ日本綿布ノ對印輸出數量制限ニ關スル異常的通商關係ヲ規定シタル爲日印貿易關係ノ推移ニ依リ之カ變更若クハ改訂ノ要アルニ鑑ミ

有効期間ヲ余リ長期トスル能ハサルヲ以テ之ヲ三年ニ止メタリ依テ右三年ノ期間滿了ト同時ニ本條約ノ存續スルト否トニ拘ラス本議定書ハ失效スヘキモノトセリ

末 文

末文ニ付テハ特ニ説明スヘキコトナシ

日印貿易額及其差額
(大藏省統計ニ據ル)

(單位千圓)

明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年
輸出	五〇六七	八〇八七	九四〇五	七九八八	一〇三三五二	一三〇八八	一三六三二	一四四二六	一八七一三
輸入	四九三〇三	六九八九四	六八〇一二	九〇二二七	六〇三一五	七四九三	四九三二八	六五一五七	九〇六三六
合計	五四三七〇	七七九八一	七七四一七	九八二二五	七〇六六七	八七六八一	六三九六〇	七九五八三	二〇〇七四
入超(付印ハ出超ヲ示ス)	四四二三六	六七八〇七	五八六〇七	八三二二九	四九九六三	六六五〇五	三五六九六	五〇七三一	七九三八〇

明治四十五年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
輸出	二二六四八	二九八七三	二六〇四八	四三二〇二	七六六一七	〇一三六四	〇一三五二	一六八七九	九三二四九	八四五〇四	九七二〇四	九六六一九	三五四三七	一七三四一
輸入	三五四七一	一七三一七	一六三二四	四七五八五	七九四六五	二九四一五	二六八一五	一八九四八	九四九三〇	一〇三六五	五四四八九	五七七一九	八七九二	七四六四七
合計	一五八三九〇	二〇一四七	二〇六三七二	一八九七二	一五六一二	三〇七七〇	二七三三〇	一八八二七	一八八二七	一八八二七	一八八二七	一八八二七	一八八二七	一八八二七
入超(付印ハ出超ヲ示ス)	一七〇九四	四三三〇一	三三二七六	〇五三八三	〇五三八三	二五五七三	二五五七三	〇五三八三	〇五三八三	〇五三八三	〇五三八三	〇五三八三	〇五三八三	〇五三八三

大正十五年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
一五五九五一	一六七五八〇	一四六〇〇七	一九八〇五七	一二九二六二	一一九三六七	一一九四九二	一一九四九二	二〇五一五五
三九一三六	二七〇五九二	二八四七九二	二八八一二〇	一八〇四二五	一三三一六五	一一六八六五	二〇四七三八	四〇九八八八
五四七〇八七	四三八一七二	四三〇八〇六	四八六一七七	三〇九六八七	二四三五三二	三〇九三五七	四〇九八八八	四〇九八八八
二二五一八五	一〇三〇一一	一三八七九二	九〇〇六三	五七一六三	二二七九八	二二七九八	二二七九八	二二七九八

註(1) 千圓以下四捨五入

(2) 明治三十四年以前ハ輸入ニ於テ海峡殖民地等ヲ含ミ、

英領印度ノミヨリノ輸入額不明ナリ